

英 語 科

英語科の本質

本校英語科の捉える「付けるべき力」の育成

英語科の本質は、「英語を通じて、コミュニケーション力（資質・能力）を養うこと」である。これまでも、①「言語や文化に対する理解を深めること」、②「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（資質）を育成すること」、③「自己の気持ちや考えを適切に伝える能力を育成すること」という3つを軸とする言語活動を通して、国際的なコミュニケーションの場で求められる能力の基礎を培ってきた。

国際的なコミュニケーションの場では、言語の知識だけではなく、自分で考え、判断し、行動する「主体性」や、論理的思考力、批判的思考力といった「論理力」が求められる。生徒が「主体性」を発揮できる授業づくりのために、主として次の2点に留意してきた。一つは、英語の使用場面を自分自身の問題として捉えることができるように「言いたくなるような場面」「表現しなければならない場面」を設定することである。こうすることで、英語使用の必要感・切実感を与えることができる。もう一つは、言語材料をもとに「英語ではなんと言うのだろうか」「習った表現で言うことはできないだろうか」と、課題の追究・解決へと向かう意識をもたせることである。「主体性」を重視した授業では、生徒は英語を手段として自己開示・自己表現を行う。このことは、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（資質）の育成に大きく寄与することから、今後も「付けるべき力」の一つとして授業実践の中で育てていきたい。

「付けるべき力」としてもう一つ重視したいのは、「論理力」である。本校では、後述するCAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定し、3年間を通じて生徒に身に付けさせたい力を明確にしながら実践を行ってきた。身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養い、特に「気持ちや考えの授受」と「即興性」に重点を置いて研究を進めてきた。対話的な言語活動を通して、論拠を明確にしながら自分の意見や考えを表現する力や他の意見を批判的に聞く力、相手の考えを踏まえて自分の考えを表現する力などを3年間を通して育成する。また、教室を実際のコミュニケーションの場に、という観点から、身近な話題について既習表現を活用して即興で話せるように指導を行う。平成27年度からの本校の研究副題「教科の本質に迫る授業づくり」を基に、生徒に「何ができるようになるればよいか」というゴールを示し、そのプロセスである「何を、どのように身に付けるか」を精選し、見通しをもって実践研究を進めていきたい。

学習到達目標〔CAN-DOリスト形式〕の活用

本校では平成26年度より学習到達目標〔CAN-DOリスト形式〕（以下CAN-DOリスト）を設定し、授業改善、生徒の表現力向上のための研究を進めてきた。「英語を使って何ができるか」という具体的な目標をもつことは、生徒が主体的・意欲的に取り組むことができる授業を作り上げていくことにつながる。このように、生徒の主体性の高まりが期待されるということは、本校が昭和41年以来掲げてきた「主体性の高まりをめざす課題学習」という研究主題が求めることそのものでもある。CAN-DOリストを導入して以来、PDCAサイクルを軸とする目標に準拠した指導と評価の一体化を目指してきたが、評価についてはまだまだ課題があり、今年度を通して改善を加えていかななくてはならない。本校英語科のCAN-DOリストを実践例の後に掲載する。

「英語科の本質に迫る授業作り」を目指して

1 「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくり

本校英語科では、授業における「主体的・対話的」な生徒の姿が「深い学び」につながると考えている。「深い学び」を実現させるためには思考力等の育成が必要である。英語科における思考力等は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること(中学校学習指導要領解説 外国語編)」と整理されており、授業実践においては「対話的」な言語活動が不可欠である。本校英語科の「話す」言語活動、とりわけ他者と情報や気持ち、考え等を伝えあう活動においては、「即興性」と「相手意識」を重視している。「即興性」については、実生活に近い英語使用の場面を設定し、ウェビング等のメモを参考にする程度で発話するような言語活動を通して、育成すべき資質・能力の柱の一つである思考力・判断力・表現力を身に付けることができると考えている。また、相手の状況や文化的背景、気持ちや考え等をふまえて発話する「相手意識」をもつことで、より状況にふさわしいコミュニケーションが生まれ、生徒はそこで達成感や心地よさを感じることができると考える。それによって生徒はさらに「主体的」に学びに向かうことができると捉えている。

2 CAN-DOリストをふまえて、単元で育てたい資質・能力を明確にした授業づくり

前述したとおり、本校では平成26年度よりCAN-DOリストを作成し、運用している。中学校卒業時のゴールを見据えながら、各学年のゴールを設定して年間指導計画を作成することで、各学年のどの単元でどのような力をどの段階まで育てていくか、ということが明確になっている。そしてこれを生徒と共有することで、生徒自身が学びのゴールに向かって見通しをもって学習に取り組むことができる。

新学習指導要領では、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」が外国語科の目標の中心となる部分である。この「理解する」、「表現する」、「伝え合う」というコミュニケーションの資質・能力は、年間140時間、中学校3年間という限られた授業数で計画的に育成されなくてはならない。また学習到達目標を設定するだけでなく、学習の過程を見取ることも必要である。本校では、学習到達度セルフチェックシートに加え、平成28年度より客観的指標としてGTEC for studentsを実施し、より有効なPDCAサイクルを確立できるようにしている。

3 問いを吟味した授業づくり

CAN-DOリストの活用により各単元で育てたい資質・能力を明確にし、その達成に向けて計画的に行う教師の働きかけとして、重要となってくるのが発問(問い)である。授業においては、あらゆる場面で、状況やねらいに応じて英語や日本語で様々な問いを投げかけており、英語の授業は「問いかけ」で構成されていると言ってもよい。英語科では、特に、読み物資料を扱う際の問いの吟味に重点を置いている。

英語科のリーディング指導における発問を大きく分類すると以下の3つになる。

①事実発問 (fact-finding question) :

テキストに直接書かれている情報を尋ね、テキストの情報の正確な理解を図る問い

②推論発問 (inferential question) :

テキストに直接書かれていない情報を尋ね、テキスト情報のより具体的な理解を図る問い

③評価発問 (evaluative question) :

テキスト内容をもとに読み手自身の意見や考えを尋ね、テキストと読み手を関連付ける問い

大下 邦幸「意見・考え重視の視点からの英語授業改革」より抜粋

実際の授業では、①事実発問でテキスト上の情報を取り出し、②推論発問でテキスト情報をもとに背景知識を活性化させながら再度違った角度でテキストを読むことで、テキストに対する理解をさらに深めさせ、③評価発問で熟考・評価する(情報を整理しながら考えなどを形成し、自分の意見や感想を述べる)という手順で指導を行っている。つまり、単にテキストの概要や要点を理解することをねらいとせず、生徒の思考力を促し、対話的で深い学びを目指している。②と③ではYes/Noで答えるような closed question ではなく、多様な答えを引き出す opened question が用いられる。より効果的に発問を活用するために、読み物資料の特質(対話文、物語文、説明文等)を捉え、発問の目的を明確にし、発問を吟味して計画的に実施していくことが大切となる。勿論、実際の授業では生徒からの想定外の発言もあり、即興的に効果的な問いかけを行っていくことも求められる。

I 第1学年実践事例

題材名: Unit 9 チャイナタウンに行こう

(NEW HORIZON English Course1)

～Show&Tellをきっかけに、情報や気持ちを相手と共有しよう～

1 課題設定

「Show&Tellの内容を生かしたやりとりを通して、相手と情報や気持ちを交換しよう」

2 題材の目標

- ・日常生活の一場面についての紹介をきっかけに、互いの情報や気持ちが共有できるまでペアで質問し合ったり応答したりすることができる。(外国語表現の能力)
- ・日常生活の一場面について、状況の描写と普段していることの説明を交えてまとまった内容で紹介することができる。(外国語表現の能力)
- ・相手に注意を促したり、何かを禁止したりすることができる。(外国語表現の能力)
- ・教科書の登場人物が行う描写や説明を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。(外国語理解の能力)
- ・現在進行形や禁止の命令文、beで始まる命令文の形・意味・用法を理解することができる。(言語・文化に関する知識・理解)

3 英語科の本質に迫る授業づくり

本校英語科が考える教科の本質は以下の4つである。

- ①CAN-DOリストを活用して付けたい力を明確にすることで、英語で適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成する。
- ②英語使用におけるオーセンティックな場を想定することで、生徒の課題意識や学習意欲を高める。
- ③英語でのやり取り(対話)を通して生徒の思考を促し、考えを深める。
- ④英語での問いを吟味することで、生徒の思考を促し、自分の考えたことや感じたことを表現できるようにする。

上記のうち、本題材では特に③と④を重視して授業づくりを行うこととする。

③については、ペア活動での相手とのやり取りにおいては、どんな質問でもすればよいというものではなく、相手と共有できることを増やすために質問するという視点を生徒に与えたい。

④については、教師や生徒のやり取りの中でどのような質問等の発話が互いのことを共有する上で有効であったかを生徒に問い、対話の方向性について考えさせる場面を設けたい。

4 全体計画 (9時間+帯活動: 本時6/9時間)

- ① ベーカー先生による中国料理店内の描写と現在進行形の理解 (1時間)
- ② 中国の伝統芸能に関する会話と現在進行形(疑問文)の理解 (1時間)
- ③ 否定命令形、beで始める命令形の形・意味・用法の理解と練習 (1時間)
- ④ 現在進行形と現在形の働きを理解し、状況に応じて使い分ける活動 (1時間)
- ⑤ 日常生活の一場面についてのShow&Tell作成とスピーチ練習 (1時間)
- ⑥ Show&Tellの発表をきっかけにペアで対話し、情報や気持ちを相手と共有する活動 (1時間)
- ⑦ ALTとのShow&Tell+対話パフォーマンステスト準備 (1時間)
- ⑧ ALTとのShow&Tell+対話パフォーマンステスト (2時間)

5 第6次(6/9時間)の授業の実際

(1) 帯活動

○どどい表現マシンガン
 ※本時で行うShow&Tellは写真の中で自分がしていることを描写した後に普段どのようにそれをしているか等について説明するので、その際に用いられる副詞的表現(「どのように」、「どこで」、「いつ」等)に慣れ親しみ、想起しやすいようにしておく。

展開

(2) 本時のゴールを確認する。

- ・単元の最後に、ALTに対してShow&Tellを行い、さらに対話を続ける活動を行うことを伝える。また、ALTからのビデオメッセージを見せ、本時の学習

に対する意欲を高める。

(3) 教師の日常生活に関するShow&Tellを見た後に、指名された生徒が教師と内容についての対話を行う。

【教師のShow&Tell】

Look at this picture. I'm playing a game. I sometimes play games on DS. I play a rhythm game and "Momo-tetsu." They are exciting. I play them alone, or with my wife. But it's a secret for my children.

【生徒と教師の対話例】

T: Do you play games, too?
 S1: Yes. I play DS games, too.
 T: Really? You play DS games, too! What game do you play?
 S1: I play "Dairanto"
 T: "Dairanto"? What kind of game is that?
 S1: Uh...
 T: Is it an action game?
 S1: It's a battle game.
 T: A battle game! I see. Is it exciting?
 S1: Yes.
 T: That's good. Do you play it every day?
 S1: No.
 T: No? How often do you play it?
 S1: I play it every weekend.
 T: Every weekend. Saturdays and Sundays. So, on the weekdays, you study, right?
 S1: Yes.
 T: Oh, very good boy! So the game is NOT a secret to your father and mother, right?
 S1: Yes... No, it's not.

※質問したことでのどのような情報が「共有」されたのかが分かりやすいよう、生徒の発言を繰り返して確認した。また、「共感」や「気付き」が生まれた場面が強調されるよう、大げさに驚いた表情をしたり、生徒の発言にコメントを加えたりしている。

(4) ペアで、日常生活についての写真を見せながら紹介文を発表し、対話を続ける。

【生徒同士の対話①】

S2: Look at this picture. I'm reading a book. I sometimes read books. I like comics. Do you like comics?
 S3: Yes, I do.

S2: Me, too. My favorite book is "Boku no hero academia." It's so fun. I don't like S.F.
 S3: Oh.
 S2: Do you like S.F.?
 S3: No. I like comics about soccer.
 S2: Oh. Soccer comic is nice. By the way, I have one hundred comics.
 S3: Where do you read books?
 S2: I read them in my room.
 S3: I see.

【生徒同士の対話②】

S4: Look at this picture. I'm playing volleyball. I'm a member of the volleyball club. I practice in the morning and after school. I'm not a good player, but I practice very hard. I like service, but I don't get many points by service. So I practice it very hard. Do you like volleyball?
 S5: Yes, but I don't play volleyball. What other sports do you like?
 S4: Oh, I like dodgeball, too.
 S5: So do you like sports?
 S4: Yes, I do.
 S5: I don't like sports, but I like watching sports games.
 S4: Do you know the rule of volleyball?
 S5: Yes. I watch an anime "Haikyuu" on TV.

※ペアで片方がShow&Tellを行い、その後話し手がスピーチの内容に関連した質問を聞き手にすることで対話を続けた。対話②のようにスピーチが全て終わってから質問を始めるペアが多かったが、中には対話①のようにスピーチの途中で共有を図る質問をする話し手もいた。

※ペア活動後、指名された生徒がShow&Tellを行い、同じく指名された生徒との対話を行った。その後全体でどんなことが共有されたか、どんな気付きがあったかを確認し、どんな質問をすればそれらが引き出せるかも考えた。



- (5) ペアを変えてShow&Tell から対話を続ける。
- (6) 全体で共有する。
- (7) 再度ペアを変えてShow&Tell から対話を続ける。
- (8) 全体で共有する。
- (9) 振り返シートに記入する。

6 成果と課題

(1) 成果

- Show&Tellの後に対話をつなげる活動はこれまでも行ってきたが、何のために対話をするのかという目的が不明確が多かった。今回の授業では本時のゴールを「相手との共有」とし、活動に際して「共感」や「気付き」があったかを繰り返し問いかけることで、情報の共有だけでなく「自分のことを知ってほしい」、「相手のことを知りたい」という情意面に生徒の意識を向けさせることができた。
- 振り返りシートのコメントでは、相手に共感できたり、相手のことが新しく分かったりすることの心地よさを感じたと書いた生徒が多く、個対個のコミュニケーションにおける伝え合うことの喜びを味わわせることができ、自分の話したいことを伝えるだけでなく「相手意識」をもたせることにもつながった。

(2) 課題

- 「相手との共有」を目指す活動であったため、相手のスピーチが自分にとって関心のもてない内容であった場合に対話が滞りがちになった。相手の話題から逸れずに共有を図るには、上位の概念（相手の話題がテニスであった場合はスポーツ全般について対話するなど）に切り替えるなどして対話を継続する練習が今後必要である。
- 振り返りシートの中で最も多かった生徒のニーズは、「言いたいことを英語でどう言っているかわからない」というものであった。既習事項が少ない中で行っている活動なので、個別に指導したり全体に問いかけたりしながらその場で必要な表現を習得させる機会がさらに必要であった。
- 対話を続けるために必要な「相づち」や「コメント」の習熟が十分でなく、相手の発言に対して抱いた感想等をうまく話せない生徒が見られた。これらの能力は即興的な対話活動の中で身に付けるものなので、今後異なるテーマで活動を行う際にも今回重視した

「相手意識」をもたせていきたい。

【学習到達目標〔CAN-DOリスト形式〕との関連】

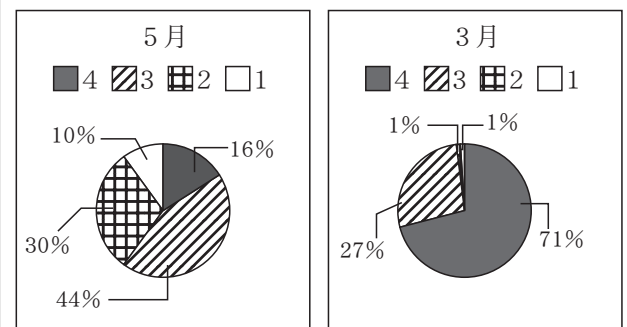
CAN-DOリストのセルフチェックシートにある、「自分の好きなことをきっかけに相手と対話を1分以上つなぐことができる」という項目では、「ほぼできる」と答えた生徒が4月では16%であったのに対し、3月には71%であった。また、「ほとんどできない」「できない」と答えた生徒は4月に40%であったが、3月には2%となった。年間を通して行ってきた対話活動の成果もあると思われるが、本単元でゴールとした、相手と「共有する」という「相手意識」の概念が生徒に浸透することで、相手に何を伝え、何を尋ねるべきかを迷う生徒が減ったのではないと思われる。今後も、与えられた状況下で伝えたいことや知りたいたいことをその場で判断しながら対話を続けることができる生徒の姿を目指していきたい。

〈関連項目の抜粋〉

◇与えられたテーマについて、ペアで協力しながら1分以上対話を続けることができる。
(即興的に話す能力)

CAN-DOリストセルフチェックシート集計結果

「自分の好きなことをきっかけに相手と対話を1分以上つなぐことができる」



- 4：ほぼできる
- 3：何回かつまずくがなんとかできる
- 2：ほとんどできない
- 1：できない

(授業者：飯島 悠一)

II 第2学年実践事例

題材名: Unit 7 The Movie Dolphin Tale

(NEW HORIZON English Course2)

～映画の内容に対して感想や意見を述べよう～

1 課題設定

「映画の内容について、感想や意見を3文程度で述べよう」

2 題材の目標

- ・与えられたトピックに対する自分の感想や意見を3文程度で述べようとするができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

- ・仲間や教師の発言を聞き、自分の発話に生かそうとすることができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

- ・映画“Dolphin Tale”に対する感想や意見を3文程度で即興で述べるができる。(外国語表現の能力)
- ・比較級・最上級の形、意味、用法を理解することができる。(言語や文化についての知識・理解)

3 英語科の本質に迫る授業づくり

外国語科において身に付ける資質・能力の育成のために中核的な役割を果たす外国語教育の「見方・考え方」は、「社会や世界、他者との関わりの側面から言語を捉え、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを形成・整理・再構築し、それらを活用して、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること」と整理されている。(引用:h28.8.26中教審教育課程部会外国語ワーキンググループによる審議の取りまとめ)

外国語教育(英語教育)においては、とくに、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」が成長することを重視している。本校英語科では、これまでも、①「言語や文化に対する理解を深めること」、②「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度(資質)を育成すること」、③「自己の気持ちや考えを適切に伝える能力を育成すること」という三つを軸と

する言語活動を通して、国際的なコミュニケーションの場で求められる能力の基礎を培ってきた。

今回の単元においては、③「自己の気持ちや考えを適切に伝える能力を育成すること」を目指して授業作りをしていきたい。これまでも、「自分の身の回りに関すること」をトピックとして即興で自分の気持ちや考えを述べる練習を重ねてきたが、映画のあらすじのように、ある程度の分量の英文を読んで自分の気持ちや考えを述べることには初めて取り組むことになる。多くの生徒にとっては困難を感じる課題であるが、話し手には聞き手意識もつことを、聞き手にはどのような聞き方が学び合いにつながるのかを考えさせることを意識して単元を構成していく。

4 全体計画(7時間+帯活動:本時6/7時間)

- ① 比較級・最上級の形・意味・用法の理解と習熟(part1&part2) …(3時間)
- ② 映画のあらすじ(前半)内容理解(part3)・映画の部分視聴 …(2時間)
- ③ 映画のあらすじ(後半)内容理解(part4)と感想・意見 …(1時間・本時)
- ④ 本課のまとめと前時をふまえた感想・意見のまとめ …(1時間)

5 第3次(6/7時間)の授業の実際

(1) Review

①映画のあらすじ(part3)の音読

※本時の後半に行く、映画の内容について感想や意見を述べる際に必要な表現を想起できるようにしておく。

②質問による内容確認(part3)



展開

(2) あらすじ後半の内容理解

- ・ picture card を見ながら、あらすじ後半(part4)の確認(閉本のまま)。

- ・内容に関する英問を受け CD を聞く。
 - ※質問に答えることで、内容のポイントを押さえることができるようにした。
 - ・音読 (overwrapping, Read and Look up)
- (3) 教師からの発問に答え、内容理解を深める。

T: "Sawyer is no longer shy. Why?"
(推論発問)
S1: He wants to collect money for Winter.
S2: He met many people and talk with them.

T: "Why does Sayer work so hard for Winter?"
(推論発問)
S3: "Winter will die if he doesn't do anything."
S4: "He thought he wanted to do everything for Winter."

T: "Can you explain the bond between people and animals from this story?" (推論発問)
S5: People can help animals, and animals can help people, too.
S6: Winter needs Sawyer and Sawyer needs Winter, too. They both need each other.
S7: People and animals can be friends like Sawyer and Winter.

※これらの発問により、本文に直接書いていない内容を問うことで、生徒の思考を促し、より深い理解を図りたいねらいがある。

- (4) 映画 "Dolphin Tale" に対する感想・意見を 3 文程度の英文で述べる。

T: What do you feel or think about this story?"
S8: I thought about the bond between people and animals through this story. Winter needed Sawyer and Sawyer needed Winter, too, I think. Animals and people can be the best friends.
T: I felt so, too. We often think we have to help animals or we can do anything to animals. But actually animals help people a lot. Animals and people need each other on the earth.
We have to think about it more.
S9: Before meeting Winter, Sawyer was lonely, I think.
He was very shy and he didn't like himself. Having a good friend is really nice.

T: Do you have the best friend?
I'm surprised animals can be our best friend.
Good friends always think about each other.
I want you to find your real friends someday.
I'm sure you can find them.

※まずはペアで話し、その後指名された生徒が感想や意見を述べた。それらの発表に対して教師がコメントや質問を行うことで、発言内容を深めたり、周りの生徒の理解を確認したりした。

※指名した生徒と似たような感想をもった生徒を挙手させ、発言を促したり、指名した生徒の感想を聞いて更に感じたことはあったか尋ねたりした。

- (5) 再度ペアを変えて感想や意見を述べる。
(6) 話したことをノートに書く。

6 成果と課題

(1) 成果

- ・映画の内容を、“Why is Sawyer no longer shy?” や “Can you explain the bond between people and animals from this story?” のような発問を通して深めたことが、映画に対する感想や意見を述べる際に有効に働いていた。
- ・全体の場で、発表者の感想（意見）に対して教師や他の生徒がコメントや質問を述べることで、個々の生徒の自己表現の手助けとなっていた。
- ・生徒の発表の途中に行う教師の手立てによって、ほぼ生徒全員が本時の目標を達成（B）することができた。
- ・映画のようなまとまった内容のものに対して即興で感想や意見を述べることは初めてのことであった。本時の事前実際に題材となっている映画を視聴したことで、生徒は題材に対して自分自身の思いや考えをもつことができた。

(2) 課題

- ・映画について感想や意見をその場で述べることはできたが、多様性には欠けた。映画の内容は生徒にとって共感できるものであったものの、そもそも題材として多様性を期待できる内容ではなかったのではないかな。
- ・推論発問の場面から、生徒とのインタラクションを中心に授業を進めた。その部分は生徒を題材に引き

寄せるという意味で有効に働いたと言える。

ただ生徒とのインタラクションの合間に、教師の自己開示があればもっとスムーズに生徒が発言できたであろうことが今後への課題であった。

- 1回目の話し合いの時間を長く取りすぎ、2回目にペアを変えて感想や意見を再度述べ合う時間が短くなってしまった。2回目のペアワークをもっと長くするほうが個々の生徒の伸びを生徒自身が確認できたと思われる。

【学習到達目標〔CAN-DOリスト形式〕との関連】

〈関連項目のみ抜粋〉

◇与えられたテーマについて、意見の根拠となる1文程度の英文を付けて、自分の意見を述べるができるとともに、相手の意見を受けて相づちや短いコメントを伝えることができる。

(即興的に行う発話)

(授業者：吉崎理香)

II 第3学年実践事例

題材名：Unit 3 Fair Trade Event

(NEW HORIZON English Course3)

— 読んだり聞いたりした内容について意見・考えを伝え合おう —

1 課題設定

「児童労働について考えたこと・感じたことを相手と伝え合おう。」

2 題材の目標

- フェアトレードに関する情報を読んだり聞いたりして、発展途上国の現状や自分の生活について考える機会とし、自分で考えたことや感じたことを伝えることができる。(外国語表現の能力)
- 相手の考えや意見を聞いて、相づちを打ったり、それに対する簡単なコメントを相手に伝えたりすることができる。(外国語表現の能力)
- フェアトレードやガーナの農園で働く子供たちの現状についての説明を読み、紹介されている内容を理解することができる。(外国語理解の能力)
- 現在完了形(継続・完了の用法)の形・意味・用法を理解することができる。(言語・文化に関する知識・理解)
- 原因を表す不定詞(副詞的用法)の形・意味・用法を理解することができる。(言語・文化に関する知識・理解)

3 英語科の本質に迫る授業づくり

- 本單元における教科の本質は以下の4つであると考えます。
- ①CAN-DOリストを活用して付けたい力を明確にすることで、バックワードデザインで指導を行う。
 - ②英語使用におけるオーセンティックな場を想定することで、生徒の課題意識や学習意欲を高める。
 - ③〇〇の表現は英語ではどのように表現するのかを考えさせることで、外国語でのコミュニケーションの場での判断力を養う。
 - ④英語での問いを吟味して発問することで、生徒の思考を促し、自分の考えたことや感じたことを表現できるようにする。

【④に関連して】

英語科のリーディング指導における発問を大きく分類すると以下の3つになる。

- ①事実発問 (fact-finding question) :
テキストに直接書かれている情報を尋ね、テキストの情報の正確な理解を図る問い
- ②推論発問 (inferential question) :
テキストに直接書かれていない情報を尋ね、テキスト情報のより具体的な理解を図る問い
- ③評価発問 (evaluative question) :
テキスト内容をもとに読み手自身の意見や考えを尋ね、テキストと読み手を関連付ける問い

学習課題やねらいに応じてこれらの発問を使い分けることで、生徒の思考を促進させ、読んだり聞いたりしたことについて考えたことや感じたことを表現できるようになっていくと考えられる。本題材においても、発問を吟味し、社会的な内容を自分事として考え、自分たちにできることは何か考えさせ、意見を伝え合う場面をつくりたい。

4 全体計画 (10時間+帯学習: 本時8/10時間)

- ① フェアトレードに関するアンケートと現在完了(経験用法)の理解 (1時間)
- ② フェアトレード商品に関する対話文と現在完了(完了用法)の理解 (1時間)
- ③ ガーナのカカオ農園で働く子供たちについての説明文の理解 (1時間)
- ④ フェアトレードに関するメールの理解 (1時間)
- ⑤ 教科書のモデル文を参考に、学んだことについて伝える練習 (1時間)
- ⑥ 教科書外の資料を読んで児童労働についての理解、自分が分かったことを相手に伝えたり、相手が言ったことを確認したりする練習 (2時間)
- ⑦ 児童労働についての話し合い(考えたこと・意見) (1時間)
- ⑧ 児童労働についての意見文作成 (1時間)
- ⑨ 台湾の生徒との紙上意見交流 (1時間)

5 第8次(8/10時間)の授業の実際

(1) ウォーミングアップ

- ①お助け表現の音読
- ②教科書の本文を音読
※フェアトレードを題材とした Unit 3 の本文
- ③ペアでチャット【Good points of Japan】
- ④3人グループでチャット
【If you go on a school trip, which is better, Tokyo or Okinawa?】
※チャット後、話したことを別のペアで伝え合ったり、全体で誰かの意見への賛否を言うことで、聞いたことに対してスムーズにコメントできることをねらいとしている。
- ⑤Small Talk【アリアナ・グランデのチャリティーコンサートについてのニュース】
※聞いて分かったことに対してスムーズにコメントできることをねらいとしている。



(2) 児童労働の現状(「ガーナのカカオ農園で働く少年」や「コットン畑で仕事をするインドの少女」等)について印象に残ったことを伝え合う。

- ①全体で既習事項を確認
- ②ペアで「学んだこと」「感じたこと」を伝え合う。

- S1: What did you learn?
S2: I learned that children in Ghana can't go to school. They have to work to help their family. I feel sorry.
-
- S2: What did you learn?
S1: I was sad to hear that children in Ghana have never eaten chocolate. I like chocolate and eat it every day.

- ③②を全体で共有
- ④ガーナのカカオ農園で働く子供の映像を視聴し、感想を述べる。

(3) 児童労働について、自分たちにできることを考え、伝え合う。【What can you do?】

- ①ペアで相談
- ②全体で共有

- We should buy fair trade products.
- Buying fair trade chocolate is one way to support them.
- We can collect money and send it to them.
- We can go to charity events.
- We can't do many things, but we can learn about it. I think it is important.

③ペアで対話 (考え・意見を深める)

a. 教師によるモデル

T: What can you do?
 S: We can buy fair trade chocolate.
 T: Why do you want to buy it?
 S: If we buy fair trade chocolate, we can help them.
 T: If we buy fair trade chocolate, what is good?
 S: We can eat chocolate.
 T: Right. And?
 S: Send money. More money goes to the workers.
 T: What do you think, S2?
 S2: They are not poor.
 T: They will not be poor.
 S2: They can get enough money to live.
 T: And what is good for children?
 S2: They can go to school.
 T: Can they?
 Ss: Maybe.
 T: Then how will the children feel?
 S2: They will feel happy.

b. ペアで対話

④全体で共有

S1: What can you do?
 S2: We can send our stationeries. When we don't need notebooks and pencils, we should send them.
 S1: Why do you want to send them?
 S2: If children in Ghana can't go to school, they can study in their houses.

⑤自分の考え・意見をメモする。

⑥「学んだこと・感じたこと・意見 (自分たちにできること)」をまとめて伝え合う。

⑦全体で何人かの生徒の意見を共有する。

T: What did you learn?
 S1: I learned about child labor. Children in Ghana can't go to school. They have to work very hard every day. They make cacao beans. But I can't eat chocolate.
 T: Can't you?
 S1: I can't support them, so I want to buy other fair trade products.
 T: Such as...? (様々なフェアトレード商品の写真を見せながら)
 S1: Bananas.
 T: We don't have to buy chocolate, so I think your idea is good. S2, what do you think about S1's idea?
 S2: I think your idea is good. Buying fair trade bananas is great.

S1: What did you learn?
 S2: Many children have to work for their families in Ghana and India. It is a terrible problem. I think children don't have to work. So I will buy some fair trade products. But they are expensive, so I will sometimes buy fair trade products.
 S1: I also think buying fair trade products is good. But if I sometimes buy fair trade chocolate, they can't get enough money. Many people have to buy fair trade products. So I want to spread fair trade products.....
 T: 最後はどのように言いたかったの?
 S1: フェアトレード商品のことを広めて、子ども達にたくさんのお金を届けたい。
 T: なるほど。今まで習った英語でどう言ったらいいかな。Talk in A pairs.
 S3: I want to tell about fair trade products to...
 T: my friends? my family? the students in our school? people in Toyama? People in Japan?
 S3: People in the world.
 S1: I want to tell about fair trade products to people in Toyama.
 S2: That's a good idea. I want to do it too.
 T: fair trade productsは何に変えることができる?
 Ss: Child labor. This problem.



6 成果と課題

(1) 成果

- CAN-DOリストを活用して、付けたい力を明確にし、本時まで継続して帯的な活動を行ったり、本時の展開を工夫したりすることで、多少難しいと思われる課題であってもねらいに迫ることができた。
- 英語での発問（評価発問：テキスト内容をもとに読み手自身の意見や考えを尋ね、テキストと読み手を関連付ける問い）を吟味することで、生徒の思考を促し、児童労働について考えたことや感じたことを表現することができた。

児童労働についての資料を読み、学んだことや感じたことを伝え合い、課題意識を十分に高める。



発問：“What can you do (now)?” と聞くことで、児童労働の問題と自分自身をつなぎ、自分事での解決方法を考えようとするができる。

- 台湾の中学生や ALT との意見交流という場を設定することで、活動の目的を明確にし、自分が学んだことや考えたことを相手に「伝えたい」という意欲を高めることができた。

①話す：ATL との交流

②書く：台湾の中学生との交流

- 生徒と生徒、生徒と教師間における英語でのやりとりを通して、児童労働について学んだことから感じたこと・考えたことについて生徒の思考を促し、自分の意見を表現することにつなげることができた。
- 「相づち」「コメント」「質問」をするために、意欲的に話し手の意見や考え聞き取り、理解しようとしていた点から、今回の場面設定は、「聞き手」育成という点でも有効であった。

(2) 課題

- 児童労働への問題意識を高めた上で“What can you do?” と発問したのは効果的であったが、「今中学生としてできること」と「将来できること」を混同している様子もあり、“What can you do now?” や “What can you do as junior high school students?” と問うとより明確であった。1つの単語の有無で生

徒への伝わり方が変わることが明らかになり、問いの吟味の大切さを感じた。

- バックワードデザインで段階的に指導したことやウェビングノートのメモを活用したことで、自分が学んだこと・感じたこと・考えたことをある程度即興的に相手に伝えることができていた。一方、「自分の考えを深める」「相手の意見に対してコメントを言う」という点では不十分であった。次回は次のような手立てで指導したい。

○「英語を用いての即興性」が失われても、母語である日本語を介して全員でじっくり考え、その中で1つか2つ言いたいことを全員で英語にしていける。

○日本語による発問を効果的に行い、生徒が本当に表現したい内容を思考させる。

(例1)

①buying fair trade productsと②learning about problem more、③collecting money at schoolと3つの考えがでてきました。中学生が実践する上で1番よい方法はどれですか。

(例2)

○○さんの発言に対して、どのようにコメントをすることができますか。全員で考えましょう。

CAN-DOリストのセルフチェックシートからの考察では、「説明文や意見文（Unit3 Fair Trade Event等）を読み、自分が分かったことについて要点をまとめて伝えたり、自分の感想や意見を伝えたりすることができる。」という項目では、「ほぼできる」「何回かつまずくができる」と答えた生徒が約90%であった。特に、「ほぼできる」と感じている生徒は、5月に26%であったが、3月に46%に上がった。英文の内容を理解するにとどめるのではなく、その内容を活用して話したり書いたりする内容につなげる、統合的な活動が生徒の学習意欲を高め、「読む」「話す」「聞く」「書く」力の向上につながったと考えられる。今後も継続して指導していきたい。

【学習到達目標〔CAN-DOリスト形式〕との関連】

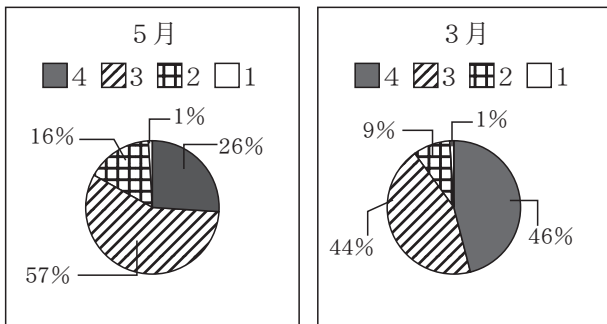
〈関連項目のみ抜粋〉

聞いたり読んだりした内容（説明文や意見文など）について、分かったことや自分の考えが伝わるように、感想や意見を言うことができる。

（即興的に話す力）

CAN-DO リストセルフチェックシート集計結果

「説明文や意見文（Unit3 Fair Trade Event 等）を読み、自分が分かったことについて要点をまとめて話したり、自分の感想や意見を伝えたりすることができる。」



- 4：ほぼできる
- 3：何回かつまずくがなんとかできる
- 2：ほとんどできない
- 1：できない

（授業者：太田 昌宏）

平成29年度富山大学附属中学校学習到達目標【CAN-DOリスト形式】

波線…行為（ことばを使って具体的に何をするのか？タスクと内容が含まれる）

太線…条件（どのような条件下でタスクを行うのか？）

二重線…判定基準またはテキスト（ことば的にどの程度上手にタスクができればよいのか？理解する場合はどの程度のテキストレベルか？）

	話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
3年 後期	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見・思いについて、<u>文章構成を考えながら理由付けや説明ができる。</u>（準備して行う発話） ○相手の意見を聞いて理解し、<u>それを受けて、適切な理由を付けて意見を伝え合うことができる。</u>（即興的に行う発話） 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なテーマについて、<u>立場を表明し、理由を述べる、一貫性の高い文章を書くことができる。</u>（意見文） ○聞いた内容について、<u>（メモを取ったりして内容を正確に理解した上で）、理由を添えて、自分の感想や意見・賛否を書くことができる。</u>（コメント） 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとまりのある<u>英語を聞いて、概要を理解し、自分にとって必要な情報を聞き取ることができる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○書かれた内容（<u>説明文や意見文など</u>）について、<u>理由をつけて自分の考えや意見を伝えることができるように読むことができる。</u>
3年 前期	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手を意識しながら、<u>日本や身近な場所などについて、自分の経験や意見を加えて話すことができる。</u>（準備して行う発話） 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み手を意識し、<u>文章構成を考えながら身近な事物について、自分の経験や感想を加えて書くことができる。</u>（紹介文、説明文） 	<ul style="list-style-type: none"> ○指示、質問、依頼、提案などを聞き、<u>場面や状況に応じて言葉や行動で適切に応じることができる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○図や表、グラフなどを<u>含む英文を読むと、概要を理解するとともに、必要な情報を読み取ることができる。</u>

	<p>○<u>聞いたり読んだりした内容（説明文や意見文など）について、分かったことや自分の考えが伝わるように、感想や意見を言うことができる。（即興的に行う発話）</u></p>	<p>○<u>身近なテーマについて、他の意見を理解し、それに対する自分の考えや意見を、理由を添えて書くことができる。（紙上ディベート）</u></p>	<p>○<u>対話の際に、自然に相づちを打ったり、確認をしたりしながら、相手の意向を捉えることができる。</u></p>	<p>○<u>書かれた内容（説明文や意見文など）について、理由をつけて賛否を伝えることができるように読むことができる。</u></p>
2年後期	<p>○<u>身近なテーマについて、教科書のモデル文や既習の表現を活用して、自分の意見に理由を付けて4文程度の英文で話すことができる。（準備して行う発話）</u></p> <p>○<u>与えられたテーマについて、意見の根拠となる1文程度の英文を付けて、自分の意見を述べることも、相手の意見を受けて相づちや短いコメントを伝えることができる。（即興的に行う発話）</u></p>	<p>○<u>身近なテーマについて、賛成・反対や自分の意見を述べる表現を用い、理由とともに簡潔に書くことができる。（意見文）</u></p> <p>○<u>身近なテーマについて、読み手の立場を考へて情報を整理し、客観的な説明を加えた簡潔な文章を書くことができる。（ポスター文）</u></p>	<p>○<u>まとまりのある英語を聞き、具体的な内容や大切な情報を理解することができる。</u></p> <p>○<u>指示、質問、依頼を聞き、簡単な言葉（OK, Sureなどの短い返答）や動作で応じることができる。</u></p>	<p>○<u>まとまりのある英文（物語文や手紙、意見文など）を読んで、その概要や書き手の意向を読み取り、要点を把握することができる。</u></p> <p>○<u>書かれた内容（説明文や意見文、メールなど）について、自分の考えを持つことができるように読むことができる。</u></p>
2年前期	<p>○<u>身近な人・ものについて、写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、初歩的な英語（中1教科書レベル）を用いて説明したり、描写したりすることができる。（準備して行う発話）</u></p> <p>○<u>過去の出来事や未来の予定について、ウェビングを補助としながら、時制の表現を正しく用いて、聞き手に正しく伝えたり、聞き手からの質問に適切に応じたりすることができる。（即興的に行う発話）</u></p> <p>○<u>与えられたテーマについて、相手の話に質問やコメントをしたり、相づちを打ったりしながら、豊かに対話をつなげることができる。（即興的に行う発話）</u></p>	<p>○<u>自分の体験したことについて、1, 2文程度の英文で、自分の考えや気持ちを書くことができる。（コメント、日記）</u></p> <p>○<u>自分が体験したことや、未来の予定について時制の表現を適切に用いて、8文程度のまとまりのある英文を書くことができる。（体験談、旅行記など）</u></p> <p>○<u>メールなどで、日常生活での出来事などについて、読み手を意識しながら、既習の表現やメール・手紙に特有の表現を用いて、自分の感想や、関連する情報を書くことができる。（メール）</u></p>	<p>○<u>まとまりのある英語を聞いて、メモをとりながら、自分にとって必要な情報を聞き取ることができる。</u></p> <p>○<u>対話の際に、相づちを打ったり、確認をしたりしながら、相手の情報を正確に聞き取ることができる。</u></p>	<p>○<u>メモやメール、手紙などの身近な英文を読んで、書き手の意向を読み取ることができる。</u></p> <p>○<u>簡単な物語文や説明文について、場面ごとに日本語で要約しながら、話の展開を読み取ることができる。</u></p>
1年後期	<p>○<u>伝えようとすることを簡潔にまとめ、内容につながりのある文章で自分や身近な人・ものを紹介することができる。（準備して行う発話）</u></p> <p>○<u>与えられたテーマについて、ペアで協力しながら1分間以上対話を続けることができる。（即興的に行う発話）</u></p>	<p>○<u>絵や実物を補助としながら、身近な人・ものについて描写したり、文と文のつながりを意識したりして書くことができる。（紹介文）</u></p> <p>○<u>自分の経験したことについて、時間の流れに沿って書くことができる。（日記）</u></p>	<p>○<u>身近な場面（駅、空港、CMなど）で話される英語を聞いて、要点を理解できる。</u></p>	<p>○<u>身近な話題についての短い対話文や通知分、掲示から必要な情報を読み取ることができる。</u></p>
1年前期	<p>○<u>内容面のつながりを意識して、自己紹介ができる。（準備して行う発話）</u></p> <p>○<u>自分のことや身の回りのものについて、簡単な対話ができる。（即興的に行う発話）</u></p>	<p>○<u>自己紹介が必要となる基本的な英文や、日常生活の身近な単語を正しく書くことができる。</u></p> <p>○<u>アルファベットの大文字と小文字、符号や語と語の区切りなどの書き方のルールを理解し、正しく使うことができる。</u></p>	<p>○<u>指示を聞いて、適切に行動することができる。</u></p>	